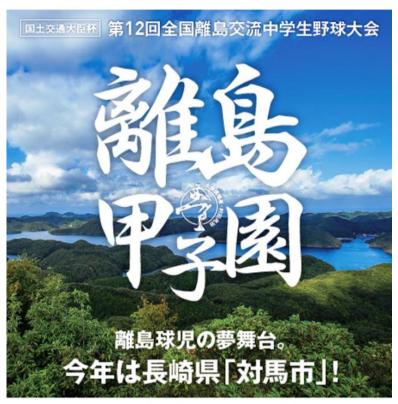
NAME

## 国土交通大臣杯

# 第12回 全国離島交流中学生野球大会

## 監督者会議・審判員会議 資料

令和元年8月19日(月) 17:00~ 対馬市立久田中学校体育館



2019.8.19<sub>mon</sub>→23<sub>fri</sub>

- ◆大会規定(試合方法、競技運営上の注意、取り決め…等)
- ◆試合間のインターバル時間の流れ
- ◆審判員について(審判にあたっての確認事項)
- ◆大会組み合わせ=記入式(監督氏名、総人員、宿舎一覧表)
- ◆全33試合のランニングスコア表=記入式
- ◆歴代大会の結果と決勝戦のスコア
- ◆歴代大会の参加自治体と各大会での試合数(交流戦除く)

別冊 審判員に配布

対馬軟式野球連盟ホームページ内に、大会ホームページを開設しています



対馬軟式野球連盟

検索\_\_

第12回大会のホームページ

対馬軟式野球連盟の 情報は左のORコードから 大会の情報と結果は 右のORコードから…



## 国土交通大臣杯 第12回全国離島交流中学生野球大会規定

#### 1. チーム登録

- ①部活動チーム、社会体育クラブチーム、各島選抜チームを問わない。
- ②登録人数 選手18名以内、監督1名、コーチ1名。 ※注)スコアラー1名、マネージャー2名の登録は任意であり、大人でも可能である。
- ③選手背番号は、1番から18番とする。 ※注)選手、背番号の変更等は下記監督者会議において、最終決定する。
- 2. 組合せ インターネットによる事前抽選結果を、開会式において公表する。
- 3. 監督者・審判会議 令和元年8月19日(月)午後5時00分より対馬市立久田中学校体育館で行う。

#### 4. 試合方法等

- ①試合はトーナメント戦とし、3位決定戦は行わない。
- ②大会第1日の一・二回戦で敗退したチームは、大会第2日に交流戦を行なう。
- ③試合は決勝戦を除き90分以内の七回戦とし、試合開始より80分を過ぎて新しいイニングに入らない。 先攻チームがリードして攻撃中に80分を経過した場合は、その裏の攻撃まで行なう。 後攻チームがリードして攻撃中に80分を経過した場合は、その時点で試合を打ち切る。
- ④試合中に選手が負傷した場合のタイムや、審判員の協議によるロス・タイムは試合時間に含めない。 タイムキーパーはネット裏記録員(スコアラー)が兼務し、中断時間を場内アナウンスする
- ⑤得点差によるコールドゲームは適用しないが③項により少数回で試合終了の場合も試合成立となる。
- ⑥七回終了時、又は③項適用の終了時に同点の場合は、タイブレーク戦の特別延長戦で勝敗を決する。 ※タイブレーク戦(特別延長戦)=大会特別規則

継続打順の打者を先頭打者とし、その前位の打者を一、二、三塁に置き一死満塁の状態で2イニングを限度に行なう。それでも勝敗が決しない場合は最終守備位置9人による『抽選』で勝敗を決する。

- ◆抽選方法…試合終了時あいさつの状態で最終守備位置順に整列。その他の選手はその後方に整列。 『印』の付いた9枚と、無地の9枚を入れた18枚の封筒を、先攻チーム投手→後攻チーム投手→ 先攻チーム捕手→……→後攻チーム右翼手の順に引き、18人が一斉に開封し『印』の多いチーム の勝利とする。審判員が『印』の確認を行った後で、主将を先頭に試合終了のあいさつを行なう。
- ⑦決勝戦は七回戦とし試合時間の制限は行わない。七回終了時に同点の場合は、二回を限度に通常の 延長戦を行い、それでも同点の場合は延長十回から上記タイブレーク戦を勝敗が決するまで行なう。
- ⑧(公財)全日本軟式野球連盟競技者必携に記されている『投手の投球制限』は、本大会においては 適用せずに監督(指導者)の判断とする。
- ⑨使用球は大会実行委員会が提出する、(公財)全日本軟式野球連盟公認M号球とする。

#### 5. 競技運営上の注意

- ①ユニフォーム等の意匠(アンダーシャツ、スパイクを含む)統一は不問とするが、背番号の重複は認めない。ユニフォームを着用していない者は試合前のアップ中でも練習に参加することはできない。
- ②ベンチに入れるのは、登録されてユニフォームを着用した監督、コーチ、選手の他は、チーム代表者、スコアラー、マネージャー、および帯同審判員とし、応援父兄等の入室は認めない。
- ③ベンチは組み合わせ番号の若番を一塁側とする(交流戦も同様)。
- ④オーダー表交換はその日の第1試合は開始予定時刻30分前に監督と主将が会場本部に出向いて行う。 第2試合目以降は、試合開始予定時刻の60分前に監督と主将が会場本部に出向いて行なう。
  - オーダー表交換の集合は会場アナウンスでも通告する。
  - オーダー表交換後の攻守決定は当該試合の審判員が立会いで行なう。
- ⑤オーダー表は監督会議の席上で1冊(25枚綴り)配布する。試合に提出するのは5枚(複写式)とする。
- ⑥試合終了後のチーム入れ替えがスムーズに行えるように、オーダー表交換時に担当者が説明する。

⑦シートノックは毎試合ごとに5分間とし、後攻チームより行なう。

その日の第1試合はオーダー表交換後直ちに行い、両チームのシートノック終了後にグラウンド整備 を行なって、開始予定時刻を目途に試合を開始する。

- 第2試合目以降は、前試合終了と同時に場内に入り用具を外野寄りに置きシートノックの準備をする。 シートノック開始から4分後に『シートノック時間。残り1分』の場内アナウンスを行なう。
- ⑧シートノックの際、捕手は装具(マスクは除く)を完全装着して行なうこと。またノッカー周辺の 補助員はヘルメットの着用を義務づける。
- ⑨金属バット、ヘルメット、捕手用装具(ヘルメット、マスク、プロテクター、レガーズ)は、JSBB全日本軟式野球連盟公認品を使用し、捕手はファウルカップ装着を義務づける。
  - 競技第1日目の各会場において、担当審判員により試合前に『用具検査』を行ない、破損した用具や 上記公認品以外の取り扱い方については、該当チーム監督に申し伝える。
- ⑩試合中にブルペンを使用する場合、投球を受ける捕手はマスクの装着を義務づける。キャッチボール のみはこの限りでは無い。(控え捕手が不在の場合、監督又はコーチが務める場合も同様とする)
- ①次試合の投手と捕手はオーダー表交換終了後であれば場内のブルペンを使用することはできるが、 試合中のチームの了解を得ること。ブルペンの使用は1組とし捕手は用具を装着して臨むこと。
- ②ベンチ前より外野寄りに飛んだファールボールの打球は、ベンチ内のチーム選手が処理すること。
- ⑬試合終了後(シートノック終了後)は、前試合の両チームがグラウンド整備を行なうこと。 その日の第1試合シートノック終了後のグラウンド整備は、会場にいるスタッフが行なう。
- ⑭その他必要に応じて、2019公認野球規則および全日本軟式野球連盟競技者必携を適用し処理する。 またC会場ではグラウンド特別ルールを採用する(試合前に確認する)。

#### 6. 競技運営に関する取り決め事項

- ①各会場の開放は、第1試合開始の1時間前とする。
- ②投手(救援投手も含む)の準備投球は初回に限り1分以内。次回からは30秒以内とする。
- ③攻守交代はかけ足でスピーディーに行なうこと。投手に限りファールラインを越えたら歩いても良い。 攻守交代時に最後のボール保持者は投手板にボールを置いてベンチに戻ること。
- ④内野手間の転送球は一回りとし(状況によっては中止することもある)、最後にボールを受けた野手は 定位置から速やかに投手に返球すること。
- ⑤投球を受けた捕手は速やかに投手に返球し、返球を受けた投手は速やかに投球姿勢を取ること。
- ⑥打者はバッターボックス内でベンチ等からのサインを見ること。
- ⑦ネクストバッターズサークルで、次打者が投球に合わせてスィングする行為を禁止する。
- ⑧代打者(代走者)の通告は氏名と共に代打者(代走者)の背番号を球審に見せ、その旨を告げること。
- ⑨監督(コーチ)が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内。延長戦では2イニングに1回とする。
- ⑩守備側のタイムで、捕手または内野手が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内。延長戦では2イニングに1回とする。
- ⑪攻撃側のタイムは1試合に3回以内とし、延長戦では2イニングに1回とする。
- ⑩それぞれのタイムは1分以内を限度とする。ただし審判員が認めた場合はこの限りではない。
- ③攻撃側の給水はベンチ内で行なうが、1イニングにおける守備時間が長くなり、守備側の選手に 給水が必要と審判員が判断したら、タイムをかけて『給水時間』を設ける場合がある。

#### 7. その他

- ①選手、監督、コーチ、帯同審判員については、旅行傷害保険を主催者において加入するが、保険の 範囲を超えての治療費等に要する経費については、各チームで責任をもって対応すること。
- ②不慮の事故に備えて、保健師等を配置し、緊急時の対応をするが、病院搬送時に備え、チーム登録者 全員の健康保険証の写しを責任者は必ず所持しておくこと。
- ③期間中は、猛暑が予想され、特に衛生面等、選手の健康状態を常に把握し各チームで対応すること。

## ◆試合間のインターバル時間の流れ◆

- 前試合終了のあいさつ時に次試合チームが入場し、ベンチの外野寄りに用具をまとめて置き、外野のファール エリアに限り、練習(キャッチボール程度)を認める。
- ・前試合のチームがベンチから退場したら、次試合のチームは用具をベンチ内に入れ後攻チームはベンチ前に 整列し、『シートノック開始』のアナウンスに備える。
- ・シートノック時間が残り1分となり、『シートノック・残り1分』のアナウンスで、先攻チームはベンチ前に整列し、 後攻チームのシートノック終了のあいさつと同時に、先攻チームがシートノックを開始する。
- ・先攻チームのシートノック中に、前試合の両チームより7、8名が出てグラウンドブラシやレーキなどを所持し、 グラウンド整備に備える。
- ・シートノック終了後(前試合終了から15分経過)に、グラウンド整備やライン引き等の作業を行なう(約10分)。 この時間帯に審判員による『用具検査』を行なうことを原則とする(一塁側=球審と一塁、三塁側=二塁と三塁)。
- ・前試合終了から25分後に審判員が定位置に整列し『集合準備』の号令で、チーム選手はベンチ前に整列する。

### ◆審判員について◆

- ①立審表は別冊に記載のとおり。
- ②帯同審判員の立審はチームと同一会場において、チーム試合の前後に1日1試合の塁審を担当する。 但し、第1日A会場第②試合勝者(久米島or新上五島)の帯同審判員に限り、1日2試合を要請する。
- ③帯同チームの試合においてベンチ内入室は可能だが、次試合の立審担当となっている場合は、試合 終了後、速やかに会場本部に出向き、次試合審判員による試合前ミーティング(シートノック中)に 参加すること。上記以外の場合は前試合開始から1時間後には会場本部で待機することが望ましい。
- ④立審者に対して給水班は設定しないので、試合開始前に配布されたペットボトルに名札を付け、 球審と一塁塁審は一塁側ベンチに、二塁塁審と三塁塁審は三塁側ベンチに置き、試合の進行を妨げる ことが無いよう、攻守交代時に適宜に給水すること。

全試合とも、試合前ミーティング終了後に審判員4人の集合写真を、適宜な場所で各会場審判長の携帯カメラで 撮影します。その画像は大会ホームページ上にチーム集合写真や、各試合の戦評と共に掲載しますのでダウンロードで ご利用ください。

## 審判にあたっての確認事項

- ◆試合開始前の打ち合わせ事項
  - ・球場ルールの確認
  - ・制限時間やコールドゲームの点差
- ・責任範囲の確認 ダブルコールの防止 内野内の飛球 ライナー 一塁(三塁)ベース前後のフェア(ファウル) 外野飛球のセンターの左右 カバーリング
- ・コール 必ず止まる(離れていても可) 間をおいてから ◆投手板、および塁ベースのブラッシング 同調=タイム、ボーク、インフィールドフライ
- チェックスィング = 球審が聞いた時のみ
- ・自打球=当ったのが見えれば合図
- ・タッグ = 見えなかった時の対応(しゃがむ)
- ・ボーク=ピッチャーを見る箇所の役割分担
- ・シグナル
  - 球審ステイ 各塁審がカバーするベース方向 インフィールドフライ タイムプレイ
- ・2アウト走者三塁および一塁の時の球審の動き
- ◆試合終了後の反省会

- ◆塁審の待機位置(試合開始前、攻守交代時)
  - ・一塁(三塁)はベース後方の10m~15mで、ラインから 5m~10m(スタンドから離れ野手の準備に支障ない位置)
  - ・二塁塁審もベースから10m~15m後方
- ◆球審=ホームベースから5m程度守備側エリアのライン寄り
  - ワンモア・ピッチのコールをしチームがボールを返した後に 定位置へ移動
- - ・塁審はインジケータとブラシを携帯
  - ・投手板は攻撃側(ベンチに戻るチーム)の塁審が投球練習 前に行なう。
- ・二塁塁審が中にいる時に3アウトになれば二塁塁審が行う
- ・各塁ベースは汚れる都度に行う

#### ◆塁審の構え

- ・無走者の時はスタンディング。足は前後でやゝ前傾
- ・走者有り=投手が投手板を踏めば、ハンズ・オン・ニー・ セットポジションでピッチャーに正対する